



—多文化共生社会を考える—

# 子どもたちが明るく 成長してくれるように

中国出身 日本在住19年

曾田 玲さん



市内にお住まいの外国人市民は2569人(平成27年4月末現在)、総人口の約2.8%を占めています。市はこのほど、外国人の方にも住みやすいまちづくりを進めるために、「甲賀市多文化共生推進計画」を策定しました。

この計画策定に当たって、外国人市民の方にも委員に加わっていただき、外国人の視点で住みよいまちに対する意見も反映しています。今回は、平成26年度甲賀市国際化推進委員会副委員長の野口喜代美さんに、委員を務められたお二人の外国人が共に生活できるまちについてのお考えを聞いてもらいました。

野口  
甲賀市にきた  
最初の印象は？

曾田 私は留学生として来日し、結婚をして子どもにも恵まれ、ずっと日本に住むことを決めました。

今こそ周りの人に教えてあげられるかもしれませんが、最初は福祉や保険などの制度が全然わからなくて大変でした。中国人の奥さんたちと話すこともありましたが、いつかは中国に帰りたいという人もいます。それはきっと、各制度がわからないことも原因のひとつではないでしょうか。ちゃんとした情報が入ってき

か中国に帰りたいという人もいます。それはきっと、各制度がわからないことも原因のひとつではないでしょうか。ちゃんとした情報が入ってき

てはじめて、日本に住むと決める人も多いと思います。

上原 僕は日本に来て9年目ののですが、最初は、僕も周りの人も、お互いあまり話しかけたくないという感じでした。

でも、近所に住む人と、あるきっかけで仲良くなってから、印象は変わりました。今では、旅行に行った時はお互いにお土産を渡したりします。また、地域の情報を教えてもらったりして、すごく助かったこともあります。

いま、甲賀市の人をどう思うかと質問をされたら、親切な人が多いと答えますが、仲良くなる前だったら、少し苦手と答えていたかもしれません。

野口  
生活の中での  
困りごとは？

曾田 一番難しかったのは言葉の壁ですね。先日、小学校で中国人のお母さんと話をしたのですが、とてもお困りの様子でした。お母さんは、日本語が話せても、書くことができなく、子どもに勉強教えられないということでした。日本語の「にや」「と」などの使い方がわからないんですね。

日常生活では、多少言葉が正確でなくても話は通じます。だから、話している相手も訂正したりしません。でも、勉強ではそうはいきません。それをお母さんはとても心配していました。学校でその日に習った内容のフォローをしてくれるところがあればありがたいと話していました。

上原 そうですね。学校の先生に気づきがあるかどうかも大切だと思います。でも、先生もクラス全員を見るのはとても難しいですね。だから、



ペルー出身 日本在住9年  
上原 ジャンカルロさん

野口  
異なる文化でも  
仲良くなれる？

上原 僕は大丈夫だと感じます。僕が暮らす水口地域の人は、自分たちとは文化が違う外国人が多いことに慣れてきているように思います。だから、私の弟の奥さんの職場で、日本人の方が南米流のパーベキューをやってみたいと声をかけてくれることがあったよう

です。知ることには積極的な人が増えてきているんですね。定期的な勉強会があれば助けると思います。

また、外国人市民が日本で生活する上で、私が必要だと思っているのは、専門性を持った通訳です。様々な窓口において、通訳の方が自身が内容を理解していないため、満足な答えを得られないことがあります。たとえば、困ったことがあって相談に来ているのに、連絡先を紹介されて、ここに聞いてくださいと言われるだけのことがありました。それでは、解決につながらないですね。

が増えてきているんですね。

曾田 食文化には人と人を近づける力があるように思います。私の経験ですが、家に知人を招いて一緒に中華料理を作ったりすると、打ち解けたということがありました。

上原 聞いた話ですが、ブラジル料理教室に参加した日本人の方が、そこで学んだ料理を気に入って、自分でも作るようになったそうです。ブラジル人の方が経営する輸入食材店に行って材料を買ったそうです。

曾田 自分たちの国の料理が認められるというのは本当にうれしいですね。

野口  
外国人市民に  
求められることは？

上原 僕は、出稼ぎで来ているという意識を捨てて、地域に貢献したいという気持ちを持つことだと思います。次に必要なのが、甲賀市民は、外国の人がそんな気持ちになることを理解して、認めることだと思います。

曾田 私は、中国人だから

といて中国の国民性にこだわり過ぎないことが必要だと思っています。

たとえば、日本人には、会社を我が家のように考えて、もっとより良くしたいという人が多くいますが、中国人にはそれほど多くない気がします。割り切った考える国民性で、時給分以上は働かないような。でもそれ以上に頑張ろうとするのが日本の国民性かな。だから、郷に入れば郷に従えという言葉がありますように、日本に来ていながら日本人と同じような気持ちにならなくて頑張ることが大事だと思います。

上原 僕は、その国の国民性に合わせる努力も必要かと思っんですが、やはり、自分の国の文化はそのまま認めてほしいという気持ちもあります。良いことはもちろん認めて取り入れるけど、自分がこれまで大切にしてきたことも持ち続けていきたいです。

共生社会は、外国人市民を受け入れることで社会全体が得をすると思います。何でも受け入れることで自分たちの